



第22回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

総務課総務係

11月6日(木)に、医学部臨床大講堂において「第22回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者さん紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で22回目を数えます。会議には、島根県内47関連病院の皆様と、椎名病院長を始めとする当院関係者44名が出席しました。

冒頭で椎名病院長から挨拶があった後、地域医療に関する病院の取組として「誰もが安心して挑戦できる医学部へ」等の内容をお伝えしました。また医療安全に関連する病院の取組として「胆膵診療における超音波内視鏡」等について説明を行い、その後、先進的な医療技術の地域への還元として、「鼓膜再生療法について」等の内容を紹介しました。

最後に椎名病院長より、当院の理念である地域医療と先進医療が調和する大学病院としての役割を十分認識し、関連病院の皆様のご意見を取り入れ、日々改善に努める旨をお伝えし閉会しました。

問い合わせ先 総務課総務係 TEL:0853-20-2506

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年12月15日～2026年1月31日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
1月23日(金) 14:30～15:30	誰でも参加できる糖尿病教室 2025年度第5回	ゼブラ棟2階だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

2024年度 ワークライフバランス川柳

賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
坂本病院長補佐賞	イクメンの 素質はあるが 彼女無し	もーりん
河村病院長補佐賞	すき焼きよ その日に限って 残業デー	肉・系
藤谷病院長補佐賞	分担ね 仕事も家事も 多職種連携	イチゴとチョコ
鈴木病院長補佐賞	あらいやだ 産後の白衣 キツすぎる	さくら
稲垣病院長補佐賞	掃除に料理 今は子どもに 助けられ	ダイエットは明日から

NEWS



表紙: 病院長補佐 肝・胆・膵外科 診療科長 兼 教授 日高 匡章

CONTENTS

- ・ 病院長補佐就任のご挨拶(医療安全担当)
- ・ 病院長補佐就任のご挨拶(研究・教育担当)
- ・ 第22回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催
- ・ 研修会・講演会・セミナー開催情報





(医療安全担当) 病院長補佐就任のご挨拶

いしはら しゅんじ
消化器内科 教授 石原 俊治



このたび、当院において病院長補佐（医療安全担当）を拝命いたしました、消化器内科の石原でございます。近年、医療現場は高度化・複雑化が一層進み、診療の質を確保するためには、医師・看護師・薬剤師・コメディカルなど、多職種が互いの専門性を尊重し理解し合いながら協力する体制が、これまで以上に重要となっております。その中で、医療安全とは単に「事故を防ぐ」ための仕組みづくりにとどまらず、患者さんと医療者の双方が、安心して診療に臨むことのできる環境を整備し続けていく、継続的かつ組織的な取り組みであると考えております。

当院ではこれまで、インシデントの報告体制の整備、動画教材や e-learning を活用した学習機会の充実、感染対策の徹底など、医療安全チームを中心に多くの取り組みが積み重ねられてきました。医療安全は現状維持を目的とするものではなく、日々の診療で生じる気づきや現場の意見を大切にし、改善を重ねていく姿勢こそが求められる分野です。現場から寄せられる声を丁寧に受け止め、課題を組織全体で共有し、より良い形へつなげていくことが医療の質向上に直結すると考えております。また、この歩みは特定の個人の努力によるものではなく、職種や部門の垣根を越えて協力し合うことで成り立つものです。

患者さんご家族、そして地域の皆さまに「この病院なら安心して任せられる」と感じていただける医療機関を目指し、これまで築かれてきた取り組みを大切にしつつ、医療者一人ひとりが支え合える環境づくりに努めてまいります。今後とも温かいご理解とご協力のほど、心よりお願い申し上げます。

問い合わせ先 消化器内科医局 TEL:0853-20-2190

(研究・教育担当) 病院長補佐就任のご挨拶

わだ こういちろう
医学部薬理学講座 教授 和田 孝一郎



この度、病院長補佐（研究・教育担当）を拝命いたしました医学部薬理学講座の和田孝一郎でございます。2025年9月まで副学部長として医学部の方で教育・研究の活性化やその評価等に携わってまいりましたが、10月より病院長補佐として附属病院における研究・教育の活性化に携わらせていただくことになりました。

私の専門は薬理学および臨床薬理学・薬物治療学です。先生方はじめ皆様もご承知のように毎年のように新薬が登場し、分子標的薬やRNA治療薬といった新しい作用機序の薬が増えています。そのため医学部の学生には、将来にわたって薬物治療に関する生涯学習を続けることができる能力獲得を目指した教育を行っております。ポリファーマシーが問題になっている昨今、患者さんは多種多様な薬を服用されています。医学生には将来的に自分の専門領域“以外の薬”についても学びを怠らずに続けていただきたいと思っております。研究に関してはこれまで多くの臨床の先生方と臨床研究やトランスレーショナルリサーチを行っております。今後も当院の研究活性化のために、臨床現場でご活躍の先生方の研究遂行のお役に立てばうれしい限りです。

当院におきましても10年以上にわたり臨床研究審査部会や薬事専門部会、未承認・適応外医薬品評価委員会などの委員を務めさせていただいております。これまでの経験と薬物治療学・臨床薬理学等に関する知識を生かし、当院における医学研究・教育の活性化とさらなる発展に尽力したいと思います。何卒よろしく願いいたします。

問い合わせ先 薬理学講座 事務室 TEL:0853-20-2133



お知らせ

脊椎骨転移に対する定位放射線治療

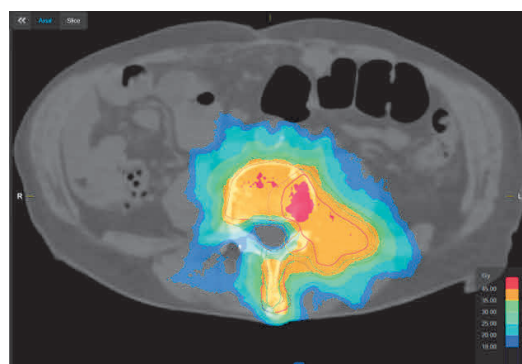
放射線治療科 診療科長 たまき ゆきひさ
玉置 幸久

転移性骨腫瘍に対する放射線治療は従来は疼痛緩和に主眼がおかれていましたが、近年定位放射線治療 (Stereotactic Radiation Therapy ; SRT) が行われるようになってきました。SRT は高精度な放射線照射技術を用いて、5 回程度の少数回の照射で高線量を集中的に病巣に与えることができます。治療強度が高いため、治療疼痛緩和効果は従来法よりも優れており、さらに高率な局所制御を可能にする治療法です。

広範な骨転移がある場合や病変のサイズが大きい場合、圧迫骨折をきたしている場合、脊髄に非常に近接している場合、脊髄圧迫症状が出現している状況などでは適応外となります。

脊椎骨への SRT では、CT だけでなく Fusion 用の MRI も用いることで病変と脊髄の位置を詳細に把握し、専用のコンピュータを用いて放射線治療プログラムを策定します。腫瘍に線量が集中し、かつ脊髄に大量の放射線が照射されないように緻密な線量計算を行います。さらに画像誘導放射線治療 (Image-guided Radiation Therapy ; IGRT) 技術を併用して照射精度をさらに高めています。

このように、脊椎骨転移に対する放射線治療は疼痛緩和だけでなく局所制御も可能になってきています。脊椎骨転移に関するご相談ございましたら、放射線治療科外来までお問い合わせください。



脊椎骨に対する定位放射線治療の線量分布図：椎体には強い線量が照射されているが脊髄への線量は低減されている

問合せ先 放射線治療科 外来 TEL : 0853-20-2002



ご報告

当院における脳死下臓器提供

院内移植コーディネーター代表 高度外傷センター 講師 むろのい ともひろ
室野井 智博

2025年9月20日(土)、当院入院中の20歳代男性(原疾患は重症頭部外傷)が法的脳死と判定され、ご家族の承諾のもと、心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、眼球の提供が行われました。脳死判定は9月18日(木)に実施し、心臓は大阪大学にて30代男性に、肺は東京大学にて50代男性に、肝臓は京都大学にて50代男性に、膵臓(同時移植)は筑波大学にて30代男性に、腎臓は岡山大学にて50代男性に、それぞれ移植手術が行われました。

脳死と判定された後に、高度外傷センターによる細やかな医療管理と、ICUでの的確な循環・呼吸管理により、各臓器の状態は良好に維持されました。また、看護師をはじめとする多職種チームが家族支援を行い、精神的ケアと家族対応に尽力しました。手術室における速やかな準備・受け入れ、事務部門における密な情報共有・伝達により、倫理規範を遵守し、適切な配慮のもとで円滑な臓器提供を進めてまいりました。多職種が一致団結し、尊いご意思を尊重した結果、多くの命を救う移植へとつながりました。

当院の院内移植コーディネーターは、毎月の連絡会および勉強会を通じて、臓器提供体制の充実と職員教育に取り組んでおります。今回の経験を糧に、尊いご意思を繋ぐべく、オール島根大学医学部附属病院として円滑な移植体制の整備と家族支援のさらなる強化に努めてまいります。

2025年09月20日、島根大学医学部附属病院に入院中の20歳代の男性(原疾患は重症頭部外傷)から心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、眼球のご提供がありました。

脳死判定日	2025年09月18日	
移植臓器	移植施設	年代、性別
心臓	大阪大学医学部附属病院	30歳代、男性
肺	東京大学医学部附属病院	50歳代、男性
肝臓	京都大学医学部附属病院	50歳代、男性
膵臓・腎臓(同時移植)	筑波大学附属病院	30歳代、男性
腎臓	岡山大学病院	50歳代、男性

https://www.jotnw.or.jp/data/offer_brain.php

画像出典:公益社団法人日本臓器移植ネットワークHP
移植に関するデータ 脳死での臓器提供 脳死臓器移植件数より引用改変

問合せ先 高度外傷センター TEL : 0853-20-2757





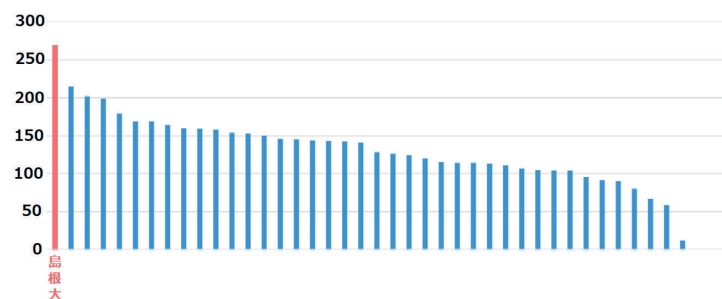
ご報告



介護支援連携指導料算定件数 国立大学病院の中で第1位!

地域医療連携センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

7月11日(金)に開催された国立大学病院医療連携・患者支援協議会において、当院における令和6年度の介護支援連携指導料の算定件数(269件)が国立大学病院で第1位だったことがわかりました。



介護支援連携指導料とは、医療機関のスタッフ(医師や看護師、社会福祉士、薬剤師、リハビリ療法士など)が退院後に利用する介護・障害福祉サービス利用について介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員と情報共有し、適切な説明や指導をおこなった場合に算定可能な指導料です。

医療機関は患者さん・ご家族のご希望や心身の状況を踏まえ、どのような介護サービスが望ましいか、また地域支援者からは在宅生活や地域にどのような社会資源があるかなどの情報を共有し、入院中から退院後のサービスの調整をします。これらの連携により患者さんご家族が退院後の生活をイメージすることができ、スムーズな退院支援につながっています。

今回、全国で1位となったことで日ごろから地域関係者との連携を大切にしているということが評価をされたという形となります。今後も患者さん・ご家族が住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活ができるよう努めてまいります。

問合せ先 医療サービス課 地域連携業務担当 TEL: 0853-20-2067



ご報告

ホスピス緩和ケア週間のイベントを開催しました!

緩和ケアチーム専任医師	あまの よしひろ 天野 芳宏
緩和ケア認定看護師	もりやま みき 森山 未来
がん看護専門看護師	おおにし ゆうき 大西 祐規

当院は日本ホスピス緩和ケア協会の正会員であり、専門的緩和ケアを提供する施設に位置づけられています。2025年10月5日(日)～10月11日(土)の世界ホスピス緩和ケア週間には全国各地でイベントが行われました。

10月9日(木)に来院された患者さん・ご家族、地域の皆さまに対して、緩和ケアの啓発・普及活動を実施しました。緩和ケア週間啓発用のパンフレット、島根県が作成したACP(アドバンス・ケア・プランニング＝人生会議)のパンフレット、院内スタッフが育てた風船葛(ふうせんかずら)の種を50部配布しました。緩和ケアを広く知っていただくために、当院の緩和ケアチームの専任医師、専従看護師が、「緩和ケアと緩和ケアチームの紹介」「人生会議について」病院正面玄関フロアでミニ講座を行いました。



ミニ講座の様子

参加された方からは、「緩和ケアは終末期に受けるケアだと思っていたが、早くから受けられることが分かった。」「これからのことを話す時には、夫婦はもちろんだが、子どもと一緒に話すことが大切だと改めて思った。」「言葉で伝えられる時に伝えておくことが必要だと思った」などの感想がありました。

今後も、患者さん、ご家族への緩和ケア、人生会議の啓発活動を行いつつ、緩和ケアの提供、人生会議の実践、普及活動に努めてまいります。

問合せ先 緩和ケアセンター TEL: 0853-20-2441





ご報告

島大病院ニュース 2025年12月

解析編

データで読み解く患者満足度アンケート 患者の声を可視化する—パレート分析が示す重点課題—

患者満足度向上WG
かわむら としひこ
医療情報部 准教授 河村 敏彦

2024年度に実施した入院患者アンケートでは、自由記載欄に計242件の不満・要望が寄せられました。当院では、これらをカテゴリーに整理し、改善効果を高めるための重点領域を特定する目的で、パレート分析を行いました。

パレート図は、パレートの法則（8対2の法則）に基づき、少数の要因が大部分の問題を生み出している重点指向を可視化する方法です。今回の結果では、「病室・設備」81件、「食事」45件、「看護師の対応」37件の3カテゴリーだけで全体の約7割（67.4%）を占めており、重点改善領域が明確になりました（図）。

- 病室・設備：空調の効きやWi-Fi環境、トイレやシャワーの使い勝手など。
- 食事：食事の量に対する不満のほか、メニュー選択に関する要望など。
- 看護師の対応：ナースコール対応や夜間のケア時の音、接し方など。

今後は、パレート図で明らかになった重点改善領域を中心に、実効性の高い改善策を進めてまいります。

※パレートの法則（8対2の法則）
全体の約8割の結果は上位2割の要因によって生じるとされる考え方。品質管理活動では、少数の重要課題にリソースを集中する際に用いられます。

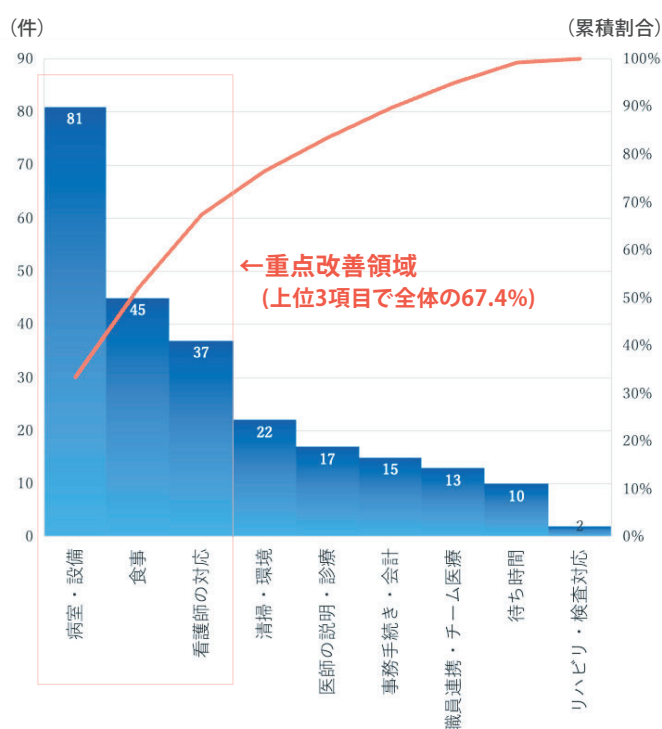


図 パレート図：不満・要望の件数別分類（入院編）

問合せ先 医療サービス課 TEL：0853-20-2067



2025年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2025年12月



「みんな集まれ Let's タオル帽子づくり!」を開催しました

がん患者・家族サポートセンター センター長

たむら けんじ
田村 研治
いまおか さおり
今岡 佐織

がん専門相談員（MSW）

がん治療の副作用として生じる脱毛に対し、頭皮を優しく保護する「タオル帽子」は、通気性に優れ、洗濯も可能なことから、治療中の患者さんに大変喜ばれています。がん患者・家族サポートセンターでは、ボランティアの皆様が作成されたタオル帽子を提供しており、多くの患者さんにご利用いただいております。

10月24日（金）、初のイベントとして「みんな集まれ Let's タオル帽子づくり!」を開催いたしました。当日は、講師として当院ボランティア北野康子さんをお招きし、市民10名の皆様にご参加いただきました。

イベントでは、参加者と病院スタッフが「がん」という病気への理解や治療について意見を交わしながら、タオル帽子作りの難しさや工夫についても共有し、終始和やかな雰囲気の中で作業が進められました。皆さん「患者さんの手元に帽子が届きますように」と思いを込めて、意欲的に取り組んでいる姿が印象的でした。

参加者からは、「患者さんの助けになるなら今後も作っていきたい」「初対面とは思えないほど会話が弾み、楽しく参加できた」などの感想が寄せられました。

今回のイベントを通じて、ボランティア活動の輪がさらに広がり、がん治療中の患者さんへ心のこもったタオル帽子を届ける取り組みが一層充実することが期待されます。ご参加・ご協力いただいた皆様にご心より御礼申し上げます。



（左）講師：北野康子さん

問合せ先 がん患者・家族サポートセンター TEL：0853-20-2545



2025年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2025年12月

島根大学医学部附属病院
島根県 脳卒中・心臓病等総合支援センター
Shimane Stroke and Cardiovascular Disease Support Center

一般の方へ 医療従事者の方へ お問い合わせ

センターについて 病気を知る わたしたちの活動 外部との連携 よくある質問



島根県 脳卒中・心臓病等総合支援センターHP
<https://shimane-noushin.jp/>
アクセス

島根県 脳卒中・心臓病等総合支援センター HPが完成しました

島根県 脳卒中・心臓病等総合支援センター長 はやし けんたろう 林 健太郎
高度脳卒中センター 助教 ありたけ しゅん 有竹 洵

このたび、島根県における脳卒中・心臓病等総合支援センターの公式ホームページを開設しました。脳卒中や心臓病などの循環器疾患は、日本人の多くが患っておられる国民病で、生活習慣病と大きな関係があります。これらは突然発症するにも関わらず、長期的な生活支援が必要となることが多く、患者さんやご家族、医療関係者にとって、正確で信頼できる情報の提供が重要です。特に島根県のような高齢者の多い地域では、重点的に対応を行っていかねばなりません。

本ホームページでは、疾患の基礎知識から予防・治療・リハビリテーションに至るまで、幅広い情報をわかりやすく掲載しています。一般市民の皆さまには、生活習慣病予防や早期発見のポイント、地域で受けられる支援制度などを紹介し、医療機関向けには、診療連携体制や研修情報、地域資源の活用方法など、実務に役立つ情報を提供しています。

また、公開講座や啓発動画、相談窓口なども設けており、地域全体で疾患への理解と支援を深めるための拠点として機能しています。今後も、患者さんの生活の質向上と医療の質の向上を目指し、情報発信と支援体制の充実に努めてまいります。

ぜひ一度、ホームページをご覧ください。島根県と島根大学の取り組みをご活用ください。

問合せ先 脳卒中・心臓病等総合支援センター TEL：0853-20-2245
(脳神経外科医局) ※この記事に関するお問い合わせのみ



2025年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2025年12月

写真1 寄附贈呈式出席者



写真2 第一生命労働組合島根県支部 桜井拓也執行委員長



第一生命労働組合島根県支部様より「だんだんハウス」へ寄附をいただきました

総務課企画調査係

10月29日(水)、第一生命労働組合島根県支部様より、当院の小児患者さんの付き添い家族専用の宿泊施設「だんだんハウス」の環境整備を目的としたご寄附を賜り、寄附贈呈式を執り行いました(写真1)。

式では、同支部執行委員長の桜井拓也様(写真2)より、「だんだんハウスは、小児患者さんとそのご家族が安心して治療に向き合える環境づくりに欠かせない施設だと考えています。今後も、お力になればと思います」との温かいお言葉を頂戴し、寄附の目録が椎名浩昭病院長へ贈呈されました。

「だんだんハウス」は、遠方から来院される小児患者さんのご家族が、安心して付き添いを行えるよう、2017年に病院敷地内に設置された入院児童等家族宿泊施設です。小児心臓外科をはじめとする専門的な医療を提供する当院では、広域からの患者受け入れが多く、宿泊環境の整備は、小児患者さんのご家族の経済的・精神的負担軽減のための重要な要素となっています。

第一生命労働組合島根県支部様には、昨年度に続き、今年度も「だんだんハウス」へのご支援をいただきました。地域に根ざした活動を展開されている同支部様の継続的なご厚意に、心より感謝申し上げます。

今回のご寄附は、「だんだんハウス」のさらなる環境整備に活用させていただき、今後も地域の小児医療の充実と、小児患者さんおよびご家族の安心につながる取り組みを進めてまいります。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL：0853-20-2019



2025年12月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

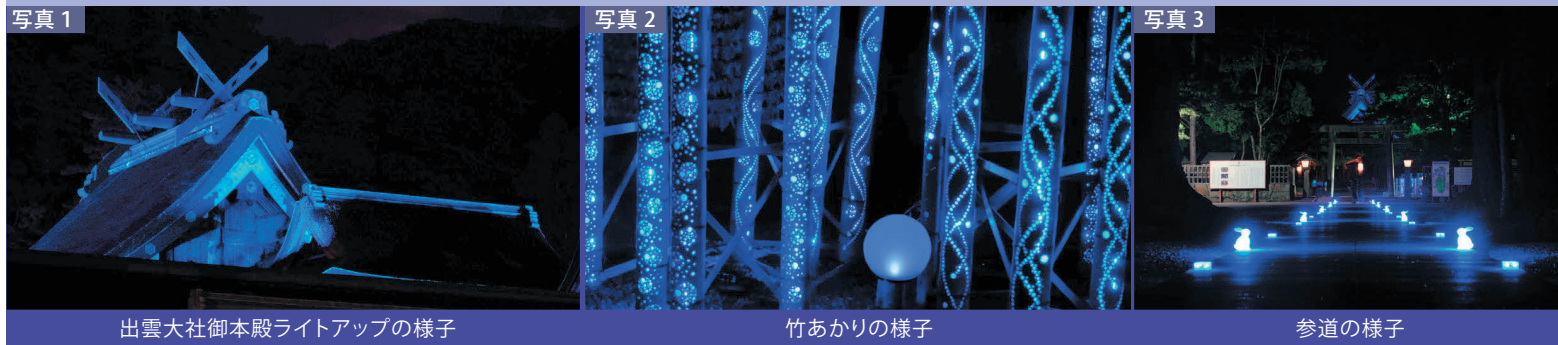


写真1 出雲大社御本殿ライトアップの様子

写真2 竹あかりの様子

写真3 参道の様子

第11回「World Diabetes Day 世界糖尿病デー 出雲大社御本殿ブルーライトアップ」を開催しました

内分泌代謝内科	助教	ただに	かい
		竹谷	海
	教授	かなさき	けいぞう
		金崎	啓造

11月3日(月・祝)、第11回「World Diabetes Day 世界糖尿病デー 出雲大社御本殿ブルーライトアップ」を開催いたしました。本イベントは世界糖尿病デー(11月14日)に合わせて、著名な建造物をイメージカラーであるブルーにライトアップし、糖尿病への理解と関心を深めることを目的に行う啓発活動で、世界各地で実施されています。

医薬医療の神様が祀られる出雲大社で11年間にわたり継続して開催してまいりました。長年にわたるご理解とご支援を賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

当日は、血糖測定・1日診療所・クイズラリーを実施し、多くの方々にご参加いただきました。また、ゆるキャラの登場、神楽上演、アンサンブル演奏なども実施し、会場は終始にぎやかな雰囲気になりました。点灯式には100名以上の方々が集まり、カウントダウンとともに御本殿がブルーに輝く瞬間を見守りました(写真1)。竹あかりや参道もブルーに彩られ、幻想的な空間が広がり、ご来場の皆様楽しんでいただけたことと思えます(写真2・3)。

現在、「生活習慣のみが糖尿病の原因である」という偏見や誤解(スティグマ)がまだ残っているのが現状です。私たちはこうした誤解を払拭し、自覚症状がないからこそ検診が重要であることを広めていきたいと考えています。異常が見つかった場合でも、安心して受診できる環境づくりを目指し、今後も正しい知識の普及に努めてまいります。

問合せ先 内分泌代謝内科 TEL: 0853-20-2183



2025年度第1回 医療安全に係る外部監査委員会を開催しました

医療安全管理部

この外部監査委員会は、医療法施行規則に基づき、学長が設置しています。設置の目的は、医療安全に係る内部統制が機能しているか医療安全管理の取組状況について外部監査を行い、必要な是正措置を含む助言や指導を実施する体制を構築するためのものです。

当委員会は、特定機能病院の要件ともなっており2017年4月から設置され、年2回以上開催することが義務付けられています。委員の構成は、医療安全管理に関する識見を有する2名、弁護士1名、医療を受ける者1名となっています。

今年度は第1回目を、去る10月29日(水)に開催し、松江赤十字病院 大居慎治院長、鹿児島大学病院 榎田英樹副院長、半澤茜弁護士、阿川博昭塩冶コミュニティーセンター長に、当院の医療安全体制について監査していただきました。

医療安全管理部門や医療安全管理委員会の業務内容、安全管理のための職員研修の実施状況などについて確認いただくとともに、実地調査では全身麻酔を受けるすべての患者さんに対して、窒息・誤嚥対策のひとつとして手術支援センターにてEAT10評価を実施している場面について高評価をいただきました(写真)。

今後も、患者さんに安心して医療を受けていただける環境づくりを目指し、引き続き医療安全の向上に努めてまいります。

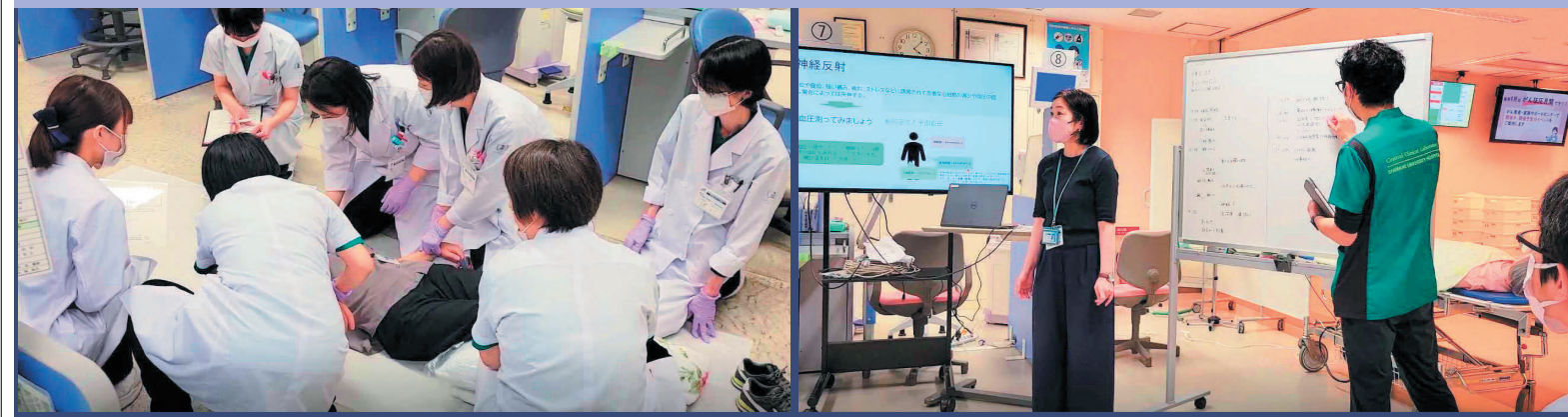
問合せ先 医療安全管理部 TEL: 0853-20-2065





ご報告

島大病院ニュース 2025年12月



シミュレーション

講義の様子

検査部外来採血室にて患者急変対応の講習会を開催しました

検査部	部長	やの しょうぞう 矢野 彰三
	臨床検査技師	こまつ あやか 小松 文香
病院医学教育センター	センター長	ひろい なおき 廣井 直樹
	助教	おおわだ めいこ 大和田 芽衣子

9月25日(木)、当院検査部では病院医学教育センターと協働し、採血室での患者急変時対応をテーマとした講習会を実施しました。

検査部では、採血時の患者急変には、採血室スタッフに加えて検体検査室や生理機能検査室のスタッフも対応にあたりますが、実際の対応経験が少ないことが課題です。そこで今回は、①患者さんの状態把握と緊急度の判断、②適切な対応手順の理解と実践を目的に勉強会を行いました。

はじめに病院医学教育センターの廣井直樹教授と大和田芽衣子助教より、急変時のABCD評価(気道、呼吸、循環評価、中枢神経障害)について講義を受け、その後、実際に採血室で採血中に意識障害を呈した模擬患者に対し急変対応を行いました。この勉強会を通して、「何かおかしい」と感じた際に患者さんを観察するポイントや、採血時の急変に多い迷走神経反射の対応方法等、多くのことを学ぶことができました。また、振り返りではスタッフ間のコミュニケーションの取り方や医師への連絡手段等、現状の課題も見つけ、有益な勉強会になりました。

検査部内に限らず、急変に遭遇した際は医療従事者として適切に対応ができるよう対応能力を向上させ、患者さんの安全確保に努めて参ります。

問合せ先 生理機能検査室 TEL: 0853-20-2412



2025年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2025年12月

令和7年度消防訓練を実施しました

会計課施設管理室長 よしだ たいき
吉田 泰樹

当院は、消防法令における特定防火対象物として、年2回以上の消防訓練の実施が義務付けられています。

今年度2回目の消防訓練として、11月4日(火)に出雲市消防本部の協力の下、「令和7年度総合消防訓練」を実施しました。

深夜2時にC病棟5階から出火したとの想定の下、夜勤看護師、当直医師、防災管理センター職員、警備員等の総勢65名が参加し、消防機関への通報と学内の連絡、初期消火並びにストレッチャーや車いすを用いて仮想入院患者を避難誘導する訓練を行いました。

また、出雲市消防本部の消防隊による、C病棟5階からの放水訓練と、逃げ遅れた患者1名をC病棟5階の屋上庭園からはしご車で救助する訓練も行われました。

今回の訓練では、避難誘導や初期消火など速やかに行うことができました。逃げ遅れ患者のはしご車による救助は、晴天にも恵まれ、参加者注目のもと普段見ることのできない消防隊による確実な救出作業を間近で見ることができました。

訓練終了後は出雲市消防本部と病院長からの講評があり、消防からは初期消火時や避難誘導時の声掛けについて、大きな声による周りへの呼びかけや、外国人患者への伝え方の工夫などを訓練に取り入れてほしいなどの助言がありました。

病院長からも、訓練に向かう心構えとして、人命を助ける病院で、火災によって命を失うことがあってはならないため、訓練を重ねてしっかり対応してほしいとの言葉がありました。

今後も訓練を積み重ね、万一の火災における適切な行動につなげたいと思います。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2051



2025年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





「造血幹細胞移植医療体制整備事業」 2025年度スキルアップWEBセミナーを実施しました

血液内科 助教 おかだ たかひろ
岡田 隆宏

造血幹細胞移植（骨髄移植など）は、白血病などの血液がんに対して根治を目指せる重要な治療法のひとつであり、当院では日常的に実施しています。移植後は合併症や後遺症のリスクがあるため、多職種が連携し、継続的なケアを行うことが不可欠です。

厚生労働省は造血幹細胞移植の質向上と地域間格差の是正を目的として、「造血幹細胞移植医療体制整備事業」を推進しております。当院は2020年度より島根県の地域拠点病院に指定され、血液内科・小児科を中心に、県内の造血幹細胞移植に携わる専門職の育成や病診連携の強化に取り組んでいます。その一環として、毎年10月に専門職の技術と知識の向上を目的とした「スキルアップWEBセミナー」を開催しており、今年は10月4日（土）に実施しました。今回は「GVHD（移植片対宿主病）」をテーマに、当院におけるGVHD診療の現状と課題、GVHDに対する継続看護、GVHDの病理診断、慢性GVHDの診断・治療について、経験豊富な先生方にご講演いただきました。

当日は全国から85名の方々にご参加いただき、活発な質疑応答と意見交換が行われました。セミナー後のアンケートでは、「非常に勉強になった」「明日からの診療に活かせる内容だった」など、多くの高評価をいただきました。

今後も島根県における血液疾患診療の質の維持・向上に努めてまいります。引き続き皆さまのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」
スキルアップWEBセミナー
会場とZoomミーティングを用いたハイブリッド形式
2025年10月4日土曜日13:00-15:35
島根大学医学部附属病院ゼブラ棟2階 だんだん

総合司会 島根大学医学部附属病院血液内科 岡田 隆宏
13:00-13:05 開会挨拶 島根大学医学部小児科看護 教授 竹谷 博
13:05-13:20 講演1 造血幹細胞移植におけるGVHDの現状と課題 島根大学医学部附属病院血液内科 講師 高橋 勉
13:20-14:00 講演2 造血幹細胞移植におけるGVHDの病理診断と治療 島根大学医学部附属病院血液内科 講師 高橋 勉
14:10-14:50 講演3 GVHD診療の現状と課題 島根大学医学部附属病院血液内科 講師 高橋 勉
14:50-15:30 講演4 GVHDに対する継続看護 島根大学医学部附属病院血液内科 講師 高橋 勉
15:30-15:35 閉会挨拶 島根大学医学部附属病院血液内科 教授 岡田 隆宏

参加希望の方は、下記URLよりお申し込みください。
申込期限 10/1 水
お問合せ 島根大学医学部医療サービス課(担当: 桂岡) TEL:0853-20-2067 E-mail:service_kanpa@office.shimane-u.ac.jp
主催 島根大学医学部附属病院 (島根県立血液病棟併設地域拠点病院)



問合せ先 血液内科 TEL : 0853-20-2308

